

## 1. 調査概要

### (1) 調査対象

宗像市のほ乳類として、市街地にはドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミなどの家ネズミ、古い民家にはアブラコウモリなどが生息していることが類推できるが、アンケート調査や聞き込みでも、短期間ではその実体はあまり明らかにはならない。

そこで、自然度が残っていると思われる境界付近の山地や離島の丘陵部分を中心に小型ほ乳類を対象にした罠かけと中型ほ乳類の痕跡調査を実施して、市内におけるほ乳類の分布状況把握に努めた。また、県道や国道で轢死した動物の報告や、見識の高い方々を対象にしたアンケートによってなるべく多くの人の眼で動物の分布をとらえようとした。またこの調査では宗像市在住の市民の皆様にご調査の一部を担っていただき、調査結果をとりまとめた後の変化まで市民自らの力で調査できる力をつけていただくとする試みも含まれている。

一般に、ほ乳類は環境破壊が進むにつれて自然環境の豊かなところに生息しているものから消失していく傾向があるので、すみやかに動物の消失を把握していくことが重要と思われる。

### (2) 調査方法

既存資料は近隣のものとして、旧福岡町の環境管理計画、旧宗像市の脊椎動物の分布について調査されたものとして、環境管理計画のための基礎調査および宗像市史がある。また、新しく宗像市に統合された旧大島村の沖ノ島には過去、何回も学術調査が行われ、いくつかの調査報告書が出版されている。

調査は主に福岡県の緑化推進課から「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」による野生鳥獣捕獲許可をいただき、小型ほ乳類を対象とした罠（シャーマントラップ）を市周辺部の山林に設置して、捕獲された動物を精査した。餌は生ピーナッツやテンプラを用いた（図版1-1）。罠設置や回収の際、市内の樹木や山林、釣川・樽見川の河川敷などほ乳類の痕跡がありそうなところはできるだけ歩き回り、動物の死体やフィールドサインの拾集に努めた。

さらに、主要道路上で轢死した動物の情報を可能な限り得た。これらの情報からタヌキやノウサギ、イタチ類、イノシシに関する状況を得ることができた。

直径30cm、深さ40cmの円筒形のゴミ箱の底30カ所ほどに直径5mmの穴を開け、落とし罠として、市内の山林6カ所に埋め、定期的の中を見回り、落ちた生物を調べた（図版1-2）。この罠からはジネズミを拾得することができた。

また、コウモリ類の分布確認のために、夕刻、宗像市内の市街地や釣川流域を巡回し、バットデテクターによって超音波の検知をおこなった。コウモリ類についても、環境省から「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」による野生鳥獣捕獲許可をいただき、かすみ網による捕獲もこころみた。

本格的な調査に先立ち、宗像市内外の見識者を中心にアンケート調査をおこない、ほ乳類に関する目撃情報や分布情報を得ることができた。また、多くの方々からジネズミやイタチ、イノシシ、クマネズミに関する情報をいただいた。これらの情報は実

地調査を補強するために役立った。

実地調査は以下の期日に実施した。

<調査日>

平成18年3月29日～30日、4月13日～14日、4月27日～28日、6月10日～11日、6月24日～25日、7月22日～23日、8月12日～13日、8月26日～27日、10月29日